

# 神戸アリーナ（仮称） <全体概要>

※本内容は事前の予告なく、変更を行う可能性がございます。予めご了承ください。

## プロジェクトのポイント

- **プロスポーツ興行、国内外トップアーティストによる音楽興行、MICEなど、多様な興行や演出に対応**でき、B.LEAGUEの新B1ホームアリーナ基準を満たした西宮ストークスのホームアリーナ
- 周辺施設・空間とも一体となって、**賑わいの創出やまちの活性化に寄与する世界水準の最先端アリーナを民設民営で整備・運営**
- 地球環境への負荷を最大限抑えたアリーナ運営を通じ、**サステイナブルな世の中の一歩へ繋がることを目指す**

## 施設概要

所在地／アクセス	神戸市中央区新港町130番2 阪急神戸三宮駅・JR三ノ宮駅から徒歩約20分			
面積	敷地	非公開	延床	非公開
構造	非公開			
観客席	約 8,000人（バスケットボール興行） 約10,000人（音楽興行・着席時）			
付帯施設	VIPルーム	有り		
	飲食・物販	有り		
	その他	テナント・フードエリア、VIPラウンジ、会議室等		
ホームチーム	西宮ストークス（Bリーグ）			
スポーツ興行	Bリーグ公式戦 年間約30試合			

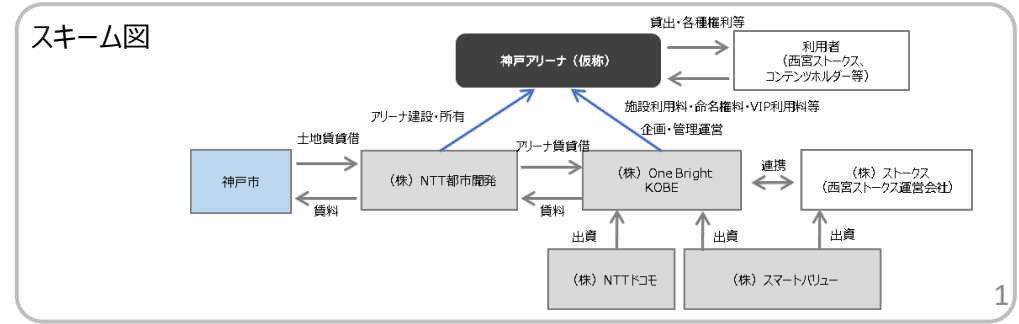
## 施設写真



## 事業概要

事業スキーム	施主：エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社 運営：株式会社One Bright KOBE	
事業主体	エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社 株式会社One Bright KOBE	
所有者	土地：神戸市 建物：エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社	
整備方法	エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社による整備	
管理・運営方法	株式会社One Bright KOBEによる運営	
事業期間	2024年（予定）～	
事業収支	整備費 非公開	管理費 非公開
	利用料収入 非公開	その他収入 非公開

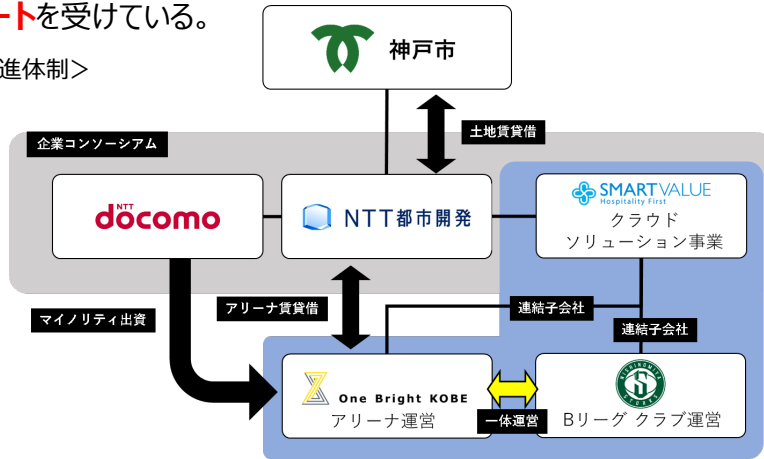
行政の役割・支援 関係機関との連携等



## 【参考ポイント①】ステークホルダー確認と検討・連携体制の整備

- ・ 構想段階からホームチームや将来的な顧客・利用者を交えて検討している。
- ・ アリーナの整備・コンテンツホルダーやビジネスパートナーとの協業・共創が周辺地域にもたらす経済的・社会的効果を検証している。
- ・ 設計、建設について、専門性を有する企業等から助言や資料作成等のサポートを受けている。

<事業推進体制>



## 【参考ポイント③】運営・管理に係る検討

- ・ 民設民営による事業の自由度を生かしながら、**サステナビリティ、レジリエンス**というこれからの時代に求められる価値観を大前提とし、民間企業との実証事業や共同事業等にも積極的に取り組むことで、**新たな価値を生み出し続けるサステナブルなアリーナ**を目指している。
- ・ アリーナID（仮称）の活用や人流の解析等の**デジタルの活用による運営・管理の効率化およびサービスの多様化**を図っている。

<神戸市とスマートバリュー、「都心・ウォーターフロントエリアの未来づくり」に向けた事業連携協定を締結>

### 協定の趣旨

神戸市は、平成23年に制定した「港都神戸」グランドデザイン～都心・ウォーターフロントの将来構想～に基づき、ウォーターフロントエリアの再開発を推進しています。スマートバリューは、神戸市の推進する港都神戸・グランドデザインに基づき、都心・ウォーターフロントエリアの神戸アリーナプロジェクトを推進しています。本協定による相互の連携の強化を通じ、テクノロジーを活用した産官学共創による都心・ウォーターフロントエリアの未来づくりに取り組み、港都神戸を象徴する都心・ウォーターフロントエリアのさらなる活性化の実現を目指します。

### 協定項目

- ①神戸アリーナ（仮称）を基点にした都心・ウォーターフロントエリアの回遊性の向上に関すること
- ②デジタルツイン都市の実現などデジタルイノベーションの社会実装に関すること
- ③市民や来訪者とのエンゲージメントを高め、関係人口を拡大するための仕組みづくりに関すること

2022年8月5日  
株式会社スマートバリュープレスリリース  
より抜粋  
<https://kyodonewsprwire.jp/release/202208044820>

## 【参考ポイント②】顧客・利用者の把握と情報の提供

- ・ アリーナの顧客・利用者となりえるスポーツ団体、音楽業界に対して、**利用する可能性や利用する場合の建物仕様、利用イメージについてヒアリング調査を実施**している。（音楽業界に関しては、**コンサートプロモーターズ協会に加盟する関西地域の企業**にヒアリングを実施）
- ・ **様々な角度から積極的な情報発信（新聞、講演会等での登壇、記者発表等）**を行い、地域住民や地元企業などの潜在的な顧客や利用者等のステークホルダーからの理解を得ようとしている。

<アリーナ計画記者発表>



## 【参考ポイント④】収益性の検証と設計等への反映

- ・ 試合・イベント日以外にも賑わいをもたらすために、**アリーナをまちづくりの拠点として、飲食店舗・トレーニングジム・ショップ等のテナントを誘致し、365日賑わい、収入が得られるような運営を検討**している。
- ・ アリーナだけでなくプラザやコリドーについても**周辺の景観との調和について配慮**し計画している。

<外観パース>

